

2023 年 12 月 14 日

札幌市長 秋元克広 様

札幌の自然を守る会

代表 梶田清尚



白旗山都市環境林での皆伐促進へのゾーニング区分変更を撤回し、
その変更に伴う森林破壊の中止を求める申し入れ

当会では 20 数年前から、札幌市が保有するまとまった森林である白旗山都市環境林を、市民が憩い、自由に散策できる身近な森林として保全されるよう幾度となく働きかけてきました。

この森林は、かつて市の財政が乏しかった大正初期のころ、それを補うためカラマツやヨーロッパトウヒなどを植え、学校を建てる資金にするなど大いに寄与してきました。それから 100 年を数え、都市化も進み、カラマツも 3 代目になって、今後は都市近郊に相応しい環境林として皆伐を避け、カラマツの長伐期化や択伐を進め、エゾマツ・トドマツや広葉樹など郷土樹種による針広混交林に変えていくことが目指されました。

それを受けた形でこれまで、この森林の取り扱い区分は「保健・文化機能等維持林」に位置づけられ、30 年間、こつこつと既存林の間伐を進め、樹下植栽木や天然広葉樹などが育てられました。

ところが、令和 5 年 3 月 27 日策定の「札幌市森林整備計画」では、突如、大面積の 20 ha で皆伐が可能な「木材等生産林」に替えられ、すでに皆伐が実行されています。

これら白旗山都市環境林の歴史的経緯・森づくりの理念を無視した変更によって、「特に効率的な施業が可能な森林区域を指定。勾配が緩く、路網の整備が進んだ市有林内の人工林を指定」といった伐採優先の理由が掲げられ、いとも簡単に都市環境林の方針が踏みにじられてしまいました。まさに暴挙というほかありません。

これは、一向に進まない国の施策である大增伐を企図した人工林短伐期皆伐施業促進のための「森林経営計画制度」に業を煮やし、それに追従した無定見な道の指導なるものをして、まとまった森林である白旗山をターゲットにした、としか考えられません。

市はこうした誤りを一刻も早く正して以前の「保健・文化機能等維持林」に戻し、皆伐事業を即刻中止すべきです。

毎日のように散策を楽しみ森林保全に協力する多くの市民が、切株だらけの皆伐跡地を見て、ため息をつき、うんざりさせていいわけがありません。

つきましては、以上、善処方、強く申し入れますとともに、これについての回答を書面にて 2024 年 1 月 19 日までに下記あて送付するよう求めます。

(連絡先) 梶田清尚 〒003-0021 札幌市白石区栄通 6 丁目 13-29 Tel011-851-4006